

## 連合福島「男女平等推進フォーラム2022」開催！

★連合「ジェンダー平等推進計画」フェーズ1★

連合福島男女平等推進フォーラム2022は、12月4日（土）15時～郡山市の市立中央公民館において、構成組織・地区連合から役員並びに若年層や女性層の組合員約130名が参加し開催された。



伊藤昭子代表幹事のあいさつ

今年も、コロナ禍を受け、広い会場で収容人員の半分の規模でソーシャルディスタンスを確保、事前の検温・消毒の協力を得て感染防止の徹底をはかりながらの対応となった。

冒頭、主催者あいさつとして連合福島青年女性委員会・伊藤昭子代表幹事は、『政府の「第5次男女共同参画基本計画」では、これまでのいわゆる「202030」の目標達成は十分な議論もなく断念され、「2020年代の可能な限り早期に30%程度となるよう目指して取組を進める」と曖昧な記載にとどめられた。「グローバル・ジェンダー・ギャップ報告書」の総合指数ランキングで120位と引き続き低迷し、先進国最下位に位置する日本の現状が浮き彫りになっている。

連合の取り組みは、第4次男女平等参画推進計画プラスが今年9月で終了、新たに連合「ジェンダー平等推進計画」フェーズ1を掲げ、2024年9月30日までの3年間の活動目標と方針が確認された。第4次計画プラスで確認された必要性和意義を改めて共有しながら、性的指向・性自認（SOGI）の尊重をより明確にし、ジェンダーに関する課題として差別やハラスメントの撲滅に私たちが取り組まなければならない。』と挨拶した。

続いて、連合福島・諸橋 誠敏事務局長は、「ジェンダー平等社会の実現とは、性別や年齢を問わず社会のあらゆる分野に参画する機会が確保され、お互いに人権を尊重しつつも責任も分かち合い、共に仕事や子育て、介護などを両立しながら、その個性と能力を十分に発揮し、経済的や社会的に均等な利益を享受できる社会づくりである。

その実現に向けて私たちがやるべきことは、働く者の代表としての世論喚起は勿論のこと、何より大切なことは、多様な生活環境や働き方を問わず、全ての組合員が主体的に労働組合活動に参画しやすい、魅力ある労働組合と共感できる運動方針を構築するとともに、個性と能力を十分に発揮できる職場環境づくりに向け、労使一体で汗をかいていくことである。」と挨拶した。

その後、連合 総合政策局 ジェンダー平等・多様性推進局部長の小栗侑大氏より、『連合「ジェンダー平等推進計画」フェーズ1』と題し御講演頂いた。参加者からは、事例も交え分かり易い講演でジェンダー平等に対する関心・理解がより深まったとの声が多くあった。



講師の小栗侑大部長

参加者の皆様の理解・協力を感謝し、終了報告とする。